日韓辞典（凡例）

この辞典の使い方

1．総収録項目数・用例数

この辞典には，日常生活でよく用いられる日本語を中心に，各種の合成語，慣用句，身近な動植物名，食材名，時事用語など4万2千語を収録した．そのうち，重要語約1,800語は*を付けて示した．また，会話・作文に使える用例を，文用例を中心に6万5千収録した．

2．見出し語

2-1　配列

かな見出しで五十音順に配列し，次の順序に従った．

（1）直音―促音の順

かつて―かって【勝手】

（2）清音―濁音―半濁音の順

ひん【品】―びん【瓶】―ピン

（3）カタカナ表記に含まれる長音符は直前の母音を重ねて書いた場合と同じに扱う．

ガーゼ（＝ガアゼ）**キーボード**（＝キイボオド）

2-2　派生語

見出し語から派生する動詞，形容詞，副詞などは必要に応じて◇をつけて示し，それぞれに訳語を与えた．

2-3　語義分類

国語辞典的な語義分類の他に，以下のような語義分類も行い，利用者の検索の便をはかった．

（1）日本語の助詞的なものによる分類

あい　〖愛が〗〖愛の〗〖愛を・愛に〗

（2）主体の相異による分類

かたい　❶〔物が〕❷〔態度・状態などが〕

（3）漢字表記の違いによる分類

かえる　❶〔代用〕❷〔交換〕

3．訳語

3-1　配列

見出し語の後に代表的な訳語を示した．「生え抜き」など適切な訳語がない場合は日本語と韓国語の差異を（→　）で示した．

3-2　区切り

訳語が複数になるときはカンマ(,)で区切った．また，他の訳語と用法が異なる場合，セミコロン(;)で区切ったところもある．

3-3　意味上の違い

複数の訳語に意味上の違いがあるときは，定義の〔　〕で補足説明を加えた．また，〔　〕を使用した場合は，区切りのカンマ(,)及びセミコロン(;)は省略した．

3-4　結び付き

訳語に伴う特定の文法的要素の結び付きを必要に応じて訳語の前後に示した．

- **が** ❶〔主語を示す〕《母音で終わる各種の語＋》가，《子音で終わる各種の語＋》이

3-5　発音注記

特に重要語で発音が難しいと思われる語には，必要に応じてハングルで発音の注意を喚起した．また，一般語でも必要に応じてつけたものもある．

いろえんぴつ【色鉛筆】색연필（►発音は 생년필）
¶24色入りの色鉛筆セット 24색 색연필 세트

3-6　用法

主な重要語を中心に，訳語の用法を，必要に応じて**使い分け**，**語法**で示した．

あいだ【間】 ❶〔時間〕동안，사이

使い分け 동안，사이

동안は開始時点から終了時点まで継続する状況とともに用いられ，사이は開始時点から終了時点の途中の一点で行われる状況とともに用いられる傾向が強い．例えば，「私がいない間留守番をしていなさい」は，내가 없는 동안 집을 보고 있어．となるのに対して，「私がいない間に誰かが来たらしい」は，내가 없는 사이에 누가 왔나 보다．となる．

3-7　参考

訳語に関する背景的な知識を**参考**で示した．場合によっては独立した記事にせず，訳語の直後に示したものもある．

3-8　漢字表記

訳語には，必要に応じて，ハングルの直後に（　）に入れて日本漢字をつけた．

4．用例

4-1　文用例中心

日本語用例は日常生活の中でよく見聞きするもの

を中心に6万5千収録し，それに適切な韓国語をつけた．「まえがき」でも触れたとおり，一つ一つの用例につけた韓国語は，数ある訳例の一つであって，これ以外のものを排除するものではない．また，用例を句の形ではなく，できるだけ文の形で示すことにより，訳語の使い方がよくわかるようにした．

4-2 配列・区切り

用例の開始記号（¶）の後に，日常的によく使われる表現を，文用例を中心に示した．一つの日本語用例に対応する複数の韓国語用例の区切りは（|）で示した．

4-3 発想のヒント・各種の注記

韓国語を書いたり話したりするときに役に立つ，日本語との発想の違い（→ ）・文法的な注意点（▶ ）などを，必要に応じて示した．また韓国語でこのように言うと誤りになるものは非文情報として，必要に応じて（× ）で示した．

4-4 基本表現

主な重要語のうち，必要に応じて基本表現を示した．ここにあげた用例は該当項目の用例から選んだもので，会話や作文をするときに最低限知っておいて欲しいものである．

4-5 慣用句

必要に応じて慣用句を示した．慣用句は日本語に対応する定訳が韓国語にもある場合はそれを示し，ない場合は意訳したものもある．

4-6 会話

具体的な状況を設定し，覚えておくと便利な会話表現を対話形式の形で示した．

会話 遊びも必要

A：勉強ばかりでなく時には遊びも必要ですよね
B：ええ，そうですよ
A：공부뿐만 아니라 때로는 노는 것도 필요하지요？
B：네，그래요．
A：次はどんな遊びをしようか
B：そうだね，かくれんぼしようよ
A：다음은 뭘 하고 놀래？
B：글쎄，숨바꼭질은 어때？

4-7 「あなた」「彼」「彼女」

日本語の「あなた」「彼」「彼女」に対応する「당신」「그」「그녀」を話し言葉で用いる場合，特に注意が

必要である．本辞典では本文中の対話形式になっていない用例では，便宜上「당신」「그」「그녀」を用いているところもある．詳しくは本文の該当箇所「あなた」「彼」「彼女」を参照していただきたい．

5．用法・語法上の指示

訳語・用例について，それらが用いられる地域的な差異や場面・文体上の性質が限定されている場合は，以下のように示した．

《婉曲的表現》
《主に女性が用いる語》
《旧称》
《敬語》
《正式名称》
《縮約語》
《俗語》
《やや俗語》
《接尾辞》
《固有語》
《主に話し言葉で用いる語》
《卑語》
《幼児語》
《略語》

6．専門語ラベル

一つの見出し語に対する訳語が紛らわしい場合，専門語ラベル〖　〗をつけて意味を区別したものもある．

フライ　〖料理〗프라이，튀김〖野球〗플라이

7．各種符号の使い方

◆　日本語の助詞的なものによる語義区分に用いる
¶　用例の開始を示す
｜　一つの日本語用例に複数の訳例がある場合の区切りに用いる
▷　基本表現における用例の開始を示す
➥　参照項目を示す
（　）　訳語・用例中の省略可能な部分に用いる
（▶　）　訳語・用例中の補足説明に用いる
（→　）　日本語と韓国語の差異を，発想のヒントとして示す
（×　）　韓国語でこのように言うと誤りになるものには×印をつけ，非文情報として示した

（↔ ） 反意語を示す
関連 見出し語の関連語を示す
［ ］ 言い換え可能な部分に用いる．韓国語用例で2語以上を言い換える場合は，言い換え可能な範囲を「…［ ］の形で示した
（< ） 語形の由来を示す
『 』 著作物の名称・タイトルなどに用いる

ハングルによる日本語の五十音表記

ハングルは表音文字なので，韓国語だけでなく日本語をはじめとする外国語を書き表すことができる．次の表は韓国教育科学技術部（日本の文部科学省に相当）の規定による日本語のハングル表記法である．

• 「や」「ゆ」「よ」は，あ行の右端にあります．

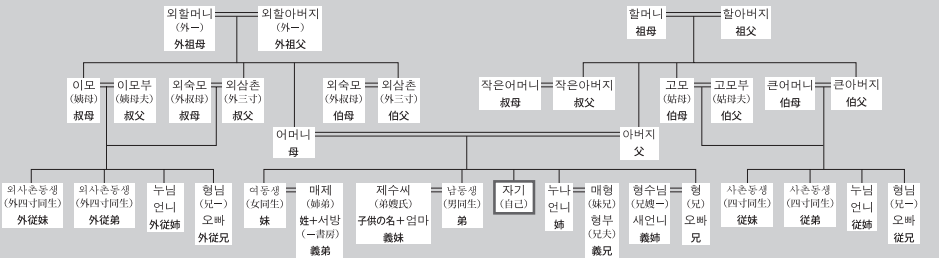
			基本母音					半母音		
清音	あ行		아 あ	이 い	우 う	에 え	오 お	야 や	유 ゆ	요 よ
	か行	語頭 ㄱ	가 か	기 き	구 く	게 け	고 こ	갸 きゃ	규 きゅ	교 きょ
		語中 ヲ	카 か	키 き	쿠 く	케 け	코 こ	캬 きゃ	큐 きゅ	쿄 きょ
	さ行	ㅅ	사 さ	시 し	스 す	세 せ	소 そ	샤 しゃ	슈 しゅ	쇼 しょ
	た行	語頭 ㄷ/ㅆ/ㅈ	다 た	지 ち	쓰 つ	데 て	도 と	자 ちゃ	주 ちゅ	조 ちょ
		語中 ㅌ/ㅊ/ㅆ	타 た	치 ち	쓰 つ	테 て	토 と	차 ちゃ	추 ちゅ	초 ちょ
	な行	ㄴ	나 な	니 に	누 ぬ	네 ね	노 の	냐 にゃ	뉴 にゅ	뇨 にょ
	は行	ㅎ	하 は	히 ひ	후 ふ	헤 へ	호 ほ	햐 ひゃ	휴 ひゅ	효 ひょ
	ま行	ㅁ	마 ま	미 み	무 む	메 め	모 も	먀 みゃ	뮤 みゅ	묘 みょ
	ら行	ㄹ	라 ら	리 り	루 る	레 れ	로 ろ	랴 りゃ	류 りゅ	료 りょ

			基本母音					半母音		
濁音	が行	ㄱ	가 が	기 ぎ	구 ぐ	게 げ	고 ご	갸 ぎゃ	규 ぎゅ	교 ぎょ
	ざ行	ㅈ	자 ざ	지 じ	즈 ず	제 ぜ	조 ぞ	자 じゃ	주 じゅ	조 じょ
	だ行	ㄷ/ㅈ	다 だ	지 ぢ	즈 づ	데 で	도 ど	자 ぢゃ	주 ぢゅ	조 ぢょ
	ば行	ㅂ	바 ば	비 び	부 ぶ	베 べ	보 ぼ	뱌 びゃ	뷰 びゅ	뵤 びょ
半濁音	ぱ行	ㅍ	파 ぱ	피 ぴ	푸 ぷ	페 ぺ	포 ぽ	퍄 びゃ	퓨 びゅ	표 びょ
その他	わ		와 わ							
	を		오 を							
	ん		バッチムのㄴで表記する　例）群馬＝ぐんま→**군마**							
	っ		バッチムのㅅで表記する　例）鳥取＝とっとり→**돗토리**							

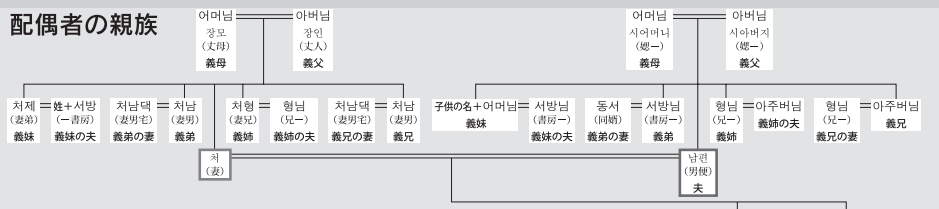
• 「う」段は一般に ㅜ を用いるが，「す」は 스，「つ」は 쓰 を用いる．また，「ず」「づ」は 즈 を用いる．
• 長母音は表記しないのが原則だが，表記するときは母音を発音どおりに書く．
　例）加藤＝かとう→ 가토 または 가토오　×가토우
• 韓国語は語頭に濁音が現れないので，語頭の濁音を区別する文字は存在しない．
• 韓国語には「さすぜぞ」に相当する音が存在しないので，「자즈제조」で代用する．
• 「え」段は ㅔ を用いる．×ㅖ　　• 「お」段は ㅗ を用いる．×ㅓ

親族呼称

「자기」(自己) が男か女かによって異なる呼称は，自己が男の場合は上のほうを，女の場合は下のほうを用いることを示す．═は婚姻関係．**ゴシック体は呼称を，明朝体は名称を表す．**（ ）内は漢字表記を示す．なお日本語訳は簡略を旨とし，「名称」のみを入れた．



配偶者の親族



親族語彙は，呼びかけるときに用いる「呼称」と，呼びかけには用いない「名称」とに分けることができるが，日常生活でしばしば耳にする「呼称」を中心に図を作成した．

一概に呼称と言っても，その種類は多く，用い方には個人差や地域差も少なくない．ここでは頻度の高いものを一つだけあげた．また，相手が既婚か未婚か，または子供がいるか否かによって呼称の異なるものがあるが，ここでは既婚で子供がいることを想定している．

妻から見て義姉の夫や義妹の夫を呼ぶ場合は，定着した呼称がないために子供の立場からの呼称を用い，たとえば義姉の夫を「고모부」と呼んだりする．外戚の場合は，頭に「외」(外) のつくものが多いが，実際に面と向かって呼ぶときは「외」を除き，結局は内戚関係の呼称と同じになることが多い．なお，「子供の名」の「子供」とは，ふつう長子のことである．「삼촌」は，実際には「삼춘」と発音される．「동생」(弟・妹) などのように個人の名前で呼ばれるものについては「呼称」の代わりに「名称」を示した．